

トルコの 翌日物貸出金利の引き下げについて

ポイント① 翌日物貸出金利を10%に引き下げ

トルコ中央銀行は4月20日の金融政策決定会合で、市場予想通り、市場金利の上限となる翌日物貸出金利を10.5%から10%に引き下げました。主要政策金利である1週間物レポレートは7.5%に、市場金利の下限となる翌日物借入金利は7.25%に、それぞれ据え置きました。これにより、政策金利のコリドー（上限金利と下限金利の幅）が縮小しました。

同中銀は3つある政策金利を最終的に一本化していく「単純化」を進めており、翌日物貸出金利の引き下げは、前回3月の会合に続き、2会合連続となりました。

ポイント② グローバルな金融環境の改善が背景

今回の翌日物貸出金利の引き下げ決定の背景には、対米ドルでの新興国通貨の安定など、グローバルな金融環境の改善があります。市場では対米ドルでのトルコリラの安定やインフレ率低下を背景に、利下げが継続されるとの見方が強まっています。

また、4月19日で任期切れを迎えたバシチュ中銀総裁の後任に、チェインカヤ副総裁が内部昇格し、新総裁のもとでの初の会合となり注目されていました。

ポイント③ 決定を好感し、トルコリラは上昇

3月の消費者物価指数は7.46%と前月より低下しましたが、同中銀の目標とする5%を依然として上回っています。同中銀は足元のインフレ率低下は、食品価格下落などを背景とした短期的なものであるとし、引き続きインフレ率の上昇を懸念しています。

政府は大幅な利下げを求めているものの、新総裁がインフレ率などを考慮し、今回の決定を行なった姿勢が好感され、4月20日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、トルコリラは対米ドルで前日比0.6%程度、対円で同1.2%程度のトルコリラ高となりました。

図1：政策金利の推移

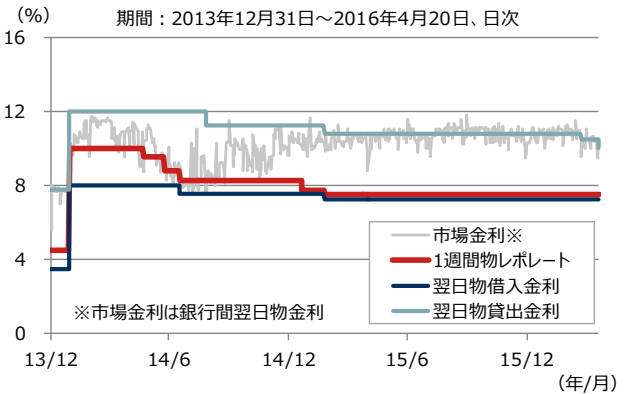


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

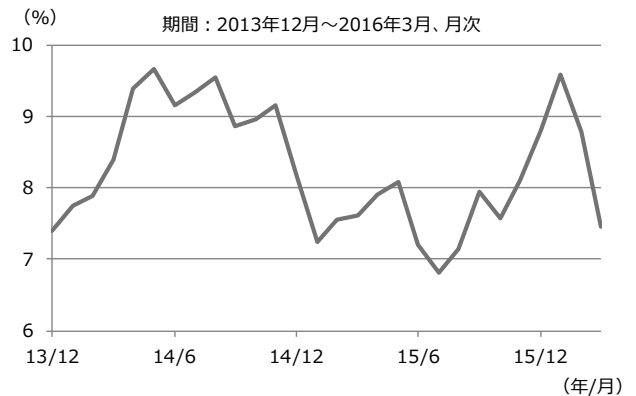


図3：為替レートの推移



（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

5月3日	消費者物価指数（4月）
5月10日	経常収支（3月）
5月24日	金融政策発表